

概 要
第 35 回 市民と市長の対話ひろば ～もりりと語ろう、宝塚市の未来～ テーマ：2050 年の宝塚～環境から考える私たちの未来～
日時：令和 8 年 8 月 22 日（土） 午前 10 時～正午 場所：西谷会館 屋内活動室 参加者：27 名 出席者：森市長 環境部 中村次長 他
《市長のテーマ説明》 1. 趣旨 ・猛暑の続く夏休み期間に環境問題を扱いたいという思いから実施。参加者と一緒に宝塚市の未来について考える場にしたい。 ・2050 年のゼロカーボンを見据えた中長期的な視点で議論を行う。 2. 地球温暖化とゼロカーボン（気候変動の現状と対策） ・神戸の観測所で昨年（2025 年）の平均気温が過去最高（28℃）を記録。ヨーロッパの熱波や、国内各地で 40℃を超える猛暑が日常化。地球の平均気温はここ 100 年で 1℃上昇しており、生態系に大きな影響を及ぼしている。 ・地球温暖化の主因は温室効果ガス（そのうち 75%が二酸化炭素）。何も対策をしなければ、2100 年までに世界の平均気温は 4℃上昇する予測。 ・アスファルトの融解、海面上昇、山火事の増加、農作物の品質低下、動植物・人間の生活への深刻な打撃を受ける。 ・パリ協定（2015 年）で産業革命前からの気温上昇を 1.5℃に抑える合意。 ・2050 年までに二酸化炭素排出量と吸収量の収支をゼロにする国際的目標であるゼロカーボン（カーボンニュートラル）を日本や宝塚市も掲げる。 ・宝塚市は国や県と異なり、産業（工場）が少なく住宅都市であるため、温室効果ガス排出の多くを家庭部門が占めている。 3. 生物多様性とネイチャーポジティブ（自然環境の保全） ・生き物同士のつながりや健全な自然生態系（水、空気、食料）によって人間は生かされているが、過去 50 年間で野生動物の個体数が 70%減少するなど、生態系が乱れている。 ・宝塚市域の 65%が森林（その 85%が人の生活に近い二次林）。武庫川溪谷や西谷地域のため池、丸山湿原群、北雲雀きずきの森など貴重な自然や動植物が存在する。 ・一方で、外来種（オオキンケイギクやクビアカツヤカミキリなど）の侵入による在来種の駆逐や桜・梅の木の枯死が課題となっている。 ・ネイチャーポジティブは失われた自然を回復軌道に乗せ、2030 年までに自然の損失を食い止めて V 字回復させ、2050 年までに生態系を完全に回復させる世界目標。宝塚市でも自然共生サイトの認定増や啓発活動を通じて取り組んでいる。

4. 市民一人ひとりの自分ごととしての取り組み

- ・他人への強制ではなく、各自が自分ごととして捉えることが重要。
- ・遠い地球規模の話ではなく、身近な熱中症対策や災害防衛の意識を持ち、一人ひとりが日々の暮らしの中（節電やエコバッグの利用など）でできることから取り組むことが大切。

5. 宝塚市の主な環境施策

- ・脱炭素に向けた支援、取り組みとして、宝塚市地域脱炭素移行・再エネ推進助成金（太陽光パネル設置などの補助）。事業者向け脱炭素経営セミナーの開催。小学校4年生へのエコライフノートの配布による啓発。公共施設の電力調達におけるリバースオークション（再生可能エネルギーの活用推進）の導入を行っている。
- ・生物多様性の保全施策として、自然共生サイトへの登録推進。ホテルの鑑賞会や水辺の生き物体験など、子どもたちが自然に親しむ機会の提供をしている。

6. まとめ

- ・財政難の状況下であっても、環境問題は未来の世代のために非常に重要な課題である。2050年に向けた「ゼロカーボン（温室効果ガス実質ゼロ）」と「ネイチャーポジティブ（自然再生）」の実現を目指し、行政と市民、そして若い世代が一体となって考えていきたい。

《対話》

1 参加者【西谷地区の環境保全活動と観察学習会の開催について】

- ・8月26日に、国の特別天然記念物（オオサンショウウオなど）を題材にした観察学習会が、まちづくり協議会や環境部会、丸山湿原群保全の会などの共催、大原野自治会や教育委員会の後援で実施される。
- ・学習会には、市内の環境保全団体や、街と里をつなぐ活動を行っている人々、行政の担当者も参加予定であり、市民・地域・行政・専門家がパートナーとしてつながる大切な機会である。

➡市長

- ・当日は参加できないものの、メッセージを送った。機会があれば参加したい。

2 参加者【農地の柔軟な活用と行政の窓口対応に関する提案】

- ・例えば放置された栗林の再生において、市が間に入ることで、所有者と草刈りなどに関わりたい人が安心してつながれるような、横断的な窓口機能の整備をしてほしい。
- ・耕作者の高齢化や離農が進む中、農地法が厳格すぎて活用が難しくなっている現状がある。棚田を生物の生息場所や子どもたちが触れ合える場所として活用するなど、実態に合わせた柔軟なルールの運用を検討してほしい。

➡市長

- ・行政の組織上、業務が多岐にわたるため完全なワンストップ化は難しい部分もあるが、宝塚市は職員同士の顔が見える関係であり、部署間でしっかりと横の連携や調整を行っている。市民から見てたらい回しに感じられる時間も、実際は内部で丁寧な調整を行っているため、ご理解願う。

・国や行政の領域でも、この 10～20 年で規制はかなり柔軟に適用できるようになってきている。ただし、行政側としては新しいアイデアに対してリスク（懸念事項）を想定してしまう傾向があるため、リスクへの手当も含めて根気強く市へ相談してほしい。

3 参加者【プラごみの分別と新たな宅地開発に関する質問・提案】

・日頃からゴミの分別を行っているが、プラスチックゴミが実際にどのように回収され、処理やリサイクルに回っているのか、その流れを知ることによって今後の分別のモチベーションにつなげたい。

・カーボンニュートラルやネイチャーポジティブの観点、および少子高齢化・人口減少の現状を踏まえ、これ以上新しい宅地（田んぼを潰すなど）を作らないというルールを検討してはどうか。

➡担当部

・宝塚市ではすべてのプラスチック製品を回収（全プラ）しているが、中には汚れや異物が混じっているものもあるため、人の手で選別してリサイクルへ出荷している。

・リサイクルされたプラも最後は燃やすことになるため、そもそもゴミを出さないライフスタイルが重要である。また、汚れたプラ（コンビニ弁当の残飯がついたものなど）が混ざると他の綺麗に分別されたプラまで汚れてしまい焼却せざるを得なくなるため、洗っても落ちない汚れのものは燃やすごみに出していただきたい。

➡市長

・趣旨としてはその通りであり、新たな大きな土地開発は必要ない時代である。ただし、街全体を緑に戻しつつ住民の暮らしを維持するためには、駅前への集合住宅への誘導など、エリアに応じた賢い転換や規制の緩和・強化のバランスが必要である。今後 2 年間かけて行う新市街地計画などの見直し議論の中で、この方向性を反映させていきたい。

4 参加者【西谷地域の環境活動と公共施設の空調管理に関する意見交換】

・日頃からプラごみを丁寧に洗って分別している立場として、汚れたゴミと一緒に回収されてしまう現状をもどかしく思う。また、環境問題の重要性を多くの人に知ってもらうため、地域住民へメールで参加を呼びかけたものの、参加者が少なかった。

・西谷地区では比較的涼しく過ごしており、自身もエアコンを極力使わず扇風機等で過ごしている。

➡市長

・日頃から環境保全や啓発活動に熱心に取り組んでおられありがたい。

・冷暖房の設定温度については、熱中症の予防や作業効率（生産性）の維持が不可欠である一方で、無駄に冷やしすぎないこととのバランスが重要である。特に高齢者は温度を感じにくく熱中症のリスクが高まるため、一律にクーラーを切るべきとは言えず、安全と快適性の両立を図りながら適切な温度設定に配慮している。

5 参加者【古民家でのエアコンなし生活と里山の生物多様性】

・古民家でエアコンを一切使わず、扇風機や自然の風での生活を後期高齢者となった現在も続けている。

・自宅に京都大学の大学院生が滞在し、里山で研究を行っている。わずか 20 秒の間にミ

ミズ→トカゲ→蛇→マムシという食物連鎖の瞬間が撮影されるなど、西谷にはマムシをはじめとする多様な生き物が豊富に生息しており、全国的に見ても研究に適した誇るべき環境である。

- ・西谷メダカの保護活動や小学校での調べ学習、手塚治虫氏が宝塚で虫に親しんで育った歴史などに触れ、こうした豊かな自然環境や歴史を大切にしてほしい。

➡市長

- ・エアコンなしの生活について、普段から汗をかいたり体を慣らしたりすることで、体温調節機能が維持できる。ただし市役所など多くの人が集まる場所では冷房の適正管理とのバランスが必要である。

6 参加者【耕作放棄地の保全と環境行政における専門人材の確保】

- ・西谷に移住して1年半が経ち、休耕地や耕作放棄地が増えていることを肌で感じている。生物多様性やネイチャーポジティブを維持する上でも人間の手の関わりが不可欠だが、特に過酷な暑さの中での草刈りなどの負担は大きく、行政の管理体制や仕組みづくりを含めた具体的なサポートをしてほしい。

- ・息の長い課題である環境問題に対しては、職員の人事異動によって専門性が失われない工夫や、データに基づいた長期的な施策を実行できる行政の体制づくり（専門人材の確保など）をしてはどうか。

➡市長

- ・農地の問題については悪循環を好循環に変えていく必要がある。農業の採算性の問題や国・農林水産省の施策と地域の現状のズレなども踏まえつつ、何がボトルネックになっているのか西谷の住民とコミュニケーションを取りながら勉強し、仕組みづくりを進めていきたい。

- ・環境分野など息の長い政策において、専門性を持った人材や体制の重要性に同意する。組織としてその方向性を意識し、何らかの工夫を取り入れていきたい。

7 参加者【宝塚西谷の森公園におけるボランティア高齢化への懸念と協力の呼びかけ】

- ・公園内の湿原や自然環境を守るためのボランティア活動に協力している人々の高齢化が進んでいる。環境活動に関心を持つ集まりの参加者に対し、宝塚西谷の森公園へのボランティア登録と活動への協力をしてほしい。

➡市長

- ・宝塚西谷の森公園に限らず、地域に貢献するボランティア全般で高齢化が進んでいる。地域活動に関心を持つ若い層などとのマッチングの仕組みづくりについて、市全体としても考えていきたい

8 参加者【ミツバチを通じた環境教育と手塚治虫氏の資源活用】

- ・身近に虫を嫌う人が多い中、環境の指標とされるミツバチの生態から自然を見直してもらおうと宝塚ミツバチプロジェクトを立ち上げ、市内小学校の環境学習でミツバチを紹介している。子どもたちに怖いから親しみや役割を知ることへの意識の変化をもたらしている。

- ・手塚治虫氏の作品に触れ、手塚治虫という宝塚市の大きな財産を、子どもから大人まで

自然の大切さをアピールする資源としてもっと活用してほしい。

➡市長

・ミツバチの飼育や環境学習を通じて、子どもたちが自然に親しみ、怖いものではなくなんだろうと興味を持つことが大切である。

・2028年の手塚治虫氏生誕100年に向けて、自然への愛や命の尊さというテーマを市の自然政策と結びつけていくことは非常に良いアイデアであり、ぜひ取り上げていきたい。

9 参加者【西谷地区へのクライנגアルテン（長期滞在型農園）の導入】

・西谷地区への「クライングアルテン（長期滞在型農園）」制度を導入してほしい。

・西谷における農業の衰退や人口減少、さらに増加する空き家の問題がある。長期滞在型の農園と空き家対策を組み合わせることで、農業従事者を増やし、南部地域との交流促進や里山・耕作放棄地の保全につなげられないか。

➡市長

・新規就農者の希望があること、そしてそれが里山や耕作放棄地の保全につながる。ただし、空き家の活用や新たな仕組みを導入するにあたっては、地域の住民がどのように考えているか、どういう形であればスムーズに進むのかをしっかりとコミュニケーションを取る必要がある。その上で、どのような仕組みを作っていくべきか、前向きに検討していきたい。

10 参加者【宝塚市の自然活用アイデアと世界のエコツーリズム】

・自治体レベルで市長や職員が土曜日に市民と対話する姿勢を称賛する。また、地球環境のシビアな現状を知り暗い気持ちになっていたが、2030年に向けた市長の前向きな話を聞いて頑張ろうと思った。

・西谷の森林がCO2を吸収している価値を活かし、武田尾の廃線敷などで賑わうトレッキング客などを西谷側のルートへ呼び込めないか。自然を感じて歩く楽しさや、農業に関わるきっかけを作ることで関係人口を増やしてほしい。

・コスタリカなどのように、生態系を重視しながら観光や国づくりを行っている海外の優れた環境事例があれば教えてほしい。

➡市長

・山本駅から中山を經由して武田尾方面へ抜けるトレラン大会が開催されている。宝塚歌劇だけでなく豊かな自然を親しんでもらい、応援してくれる人を増やすことが重要な戦略である。地域の住民にとって受け入れやすい形にするためのバランスや調整が重要である。

・世界で初めてエコツーリズムが始まったブータンという国では、自然を保全しながら、意識の高い旅行者が環境に配慮した宿泊やガイド付きの体験にお金を落としていく仕組みがある。

11 参加者【宝塚市の自然・観光の連携と今後の展望】

・南部市街地から西谷へ移住した。観光地としての宝塚市と西谷の豊かな自然・農村環境をつなげることは簡単ではないが、本日の対話を通じて長期滞在型施設やオオサンショウウオなどの貴重な自然資源を活かしたツーリズムに大きな可能性を感じた。

・高齢化が進む各種団体（ユネスコ協会など）の活動を若い世代へ引き継ぎ、地域や世代を超えた交流を西谷でどう着地させていくか、今後も工夫していきたい。

➡市長

・本日の集会で出された数々の意見や提案について、どれも非常に納得のいく貴重なものばかりであった。

・西谷の自然を守りつつ関係人口を増やし、農業や定住をどう持続可能なものにしていくか、単なる意見交換に終わらず実効性のある政策・枠組みとして形にするために知恵を絞っていく。